

表B 小児肥満症の診断基準と関連する健康障害：2002年と2017年の比較

	小児肥満症判定基準2002年版*	小児肥満症診療ガイドライン2017
肥満の定義	肥満度が+20%以上、かつ体脂肪率が有意に増加した状態(有意な体脂肪率の増加とは、男児：年齢を問わず25%以上、女児：11歳未満は30%以上、11歳以上は35%以上)	
肥満症の定義	肥満に起因ないし関連する健康障害(医学的異常)を合併するか、その合併が予測される場合で、医学的に肥満を軽減する必要がある状態をいい、疾患単位として取り扱う	
適用年齢	5歳から18歳未満	6歳から18歳未満
肥満症診断	<p>A項目：肥満治療を必要とする医学的異常 B項目：肥満と関連が深い代謝異常 参考項目：身体的因子や生活面の問題</p> <p>肥満の程度を勘案して判定する方法とスコアリングシステムの2つの方法あり</p>	<p>A項目：肥満治療を必要とする医学的異常 B項目：肥満と関連が深い代謝異常 参考項目：身体的因子や生活面の問題</p> <p>肥満の程度を勘案して判定する方法のみ (1)A項目を1つ有するもの (2)肥満度が+50%以上でB項目の1つ以上を満たす (3)肥満度が50%未満でB項目の2つ以上を満たすものを小児肥満症と診断する (参考項目は2つ以上あれば、B項目1つと同等とする)</p>
診断基準に含まれる肥満に伴う健康障害	<p>A項目 1) 高血圧 2) 睡眠時無呼吸症候群などの換気障害 3) 2型糖尿病・耐糖能障害 4) 内臓脂肪型肥満</p> <p>B項目 1) 肝機能障害 2) 高インスリン血症 3) 高TC血症 4) 高TG血症 5) 低HDL-C血症 6) 黒色表皮症 7) 高尿酸血症</p> <p>参考項目 1) 皮膚線条などの皮膚所見 2) 肥満に起因する骨折・関節障害 3) 月経異常 4) 走力・跳躍力の低下 5) 肥満に起因する不登校・いじめなど</p>	<p>A項目 1) 高血圧 2) 睡眠時無呼吸症候群などの換気障害 3) 2型糖尿病・耐糖能障害 4) 内臓脂肪型肥満 5) 早期動脈硬化症</p> <p>B項目 1) 非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD) 2) 高インスリン血症かつ/または黒色表皮症 3) 高TC血症かつ/または高non HDL-C血症 4) 高TG血症かつ/または低HDL-C血症 5) 高尿酸血症</p> <p>参考項目 1) 皮膚線条などの皮膚所見 2) 肥満に起因する運動器機能障害 3) 月経異常 4) 肥満に起因する不登校・いじめなど 5) 低出生体重児または高出生体重児</p>

*肥満研究2002;8:204-11, 2014;20:136-8, 20(2):i-xxviから作成